

第11回基礎・臨床融合の学内共同研究発表会 : 薬効・薬物動態研究の最前線 : 個別化薬物療法の 確立に向けて

雑誌名	滋賀医科大学雑誌
巻	27
号	1
ページ	a01-a01
発行年	2014-03-14
URL	http://hdl.handle.net/10422/5711

第 11 回 基礎・臨床融合の学内共同研究発表会

薬効・薬物動態研究の最前線～個別化薬物療法の確立に向けて～

日 時 平成 25 年 4 月 3 日（水曜）16 時 30 分～18 時 30 分

場 所 大会議室（管理棟 3 階）

講演者と演題

1. 森田幸代（腫瘍センター／精神医学講座、特任講師）
「精神疾患患者のオーダーメイド医療への挑戦」
2. 平 大樹（薬剤部、特任助教）
「母集団薬物動態解析法を用いた高尿酸血症治療薬の個別化投与設計」
3. 生城真一（富山県立大学工学部、准教授）
「異物代謝酵素発現酵母株を用いた医薬品代謝物調製技術の開発」
4. 寺田智祐（薬剤部、教授）
「院内における PGx 検査の体制構築に向けた取り組みについて」

はじめに

研究活動推進室（服部隆則副学長）による基礎医学講座と臨床医学講座が融合した学内共同研究プロジェクト推進のため、第11回学内共同研究発表会を開催したので報告する。

平成 25 年 4 月 3 日（水）16 時 30 分より大会議室（管理棟 3 階）で、『薬効・薬物動態研究の最前線～個別化薬物療法の確立に向けて～』というテーマで、森田幸代先生（腫瘍センター／精神医学講座、特任講師）、平 大樹先生（薬剤部、特任助教）、生城真一先生（富山県立大学工学部、准教授）、寺田智祐先生（薬剤部、教授）が講演した。

本会は平成 22 年 11 月及び平成 23 年 11 月に行

われた『UDP-グルクロン酸転移酵素多型による薬物代謝への影響と副作用発現の予測の研究』及び『UDP-グルクロン酸転移酵素発現系を用いた迅速な薬物代謝解析の臨床応用』に続く、第 3 回の発表会である。UDP-グルクロン酸転移酵素のみならず、チトクローム P450 などの様々な薬物代謝酵素の遺伝子多型に着目した薬効・薬物動態研究及びそれを支える院内で遺伝子多型解析検査の体制構築に関する講演が行われた。

発表会には馬場忠雄学長をはじめ基礎・臨床あわせて 40 名の出席があり、各演者の講演終了後には、参加者から活発な質疑がなされ、個別化薬物療法の確立に向けた研究の展開及び方向性に関する手掛かりが得られた。